玉祥寺

菊池市北部にある玉祥寺は、1452 年にこの曹洞宗の寺院を創建した菊池為邦（1430-1488）の統治下で始まった、文化開花の時代と関係があります。為邦は、一族の政治的・軍事的な力が衰退する中、地方文化の支援に目を向け、武士や町人に教育を施し、彼らの知的・精神的探求を奨励しました。為邦とその息子重朝（1449-1493）の指導の下、菊池は仏教や儒教の学問の中心地となり、詩歌や茶の文化も花開きました。

玉祥寺は為邦によって彼の菩提寺（先祖代々のお墓を祀る寺）として建立され、寺の墓地には重朝の墓の隣に為邦の墓が立っています。寺のお堂やその他の建造物は火災で失われ何度か再建されていますが、現在本堂に掲げられている銅製の梵鐘は、何世紀もの間残されてきたものです。1496 年に鋳造されたこの鐘は、現在、参拝のお知らせや祈祷の合図のためなどに鳴らされる「殿鐘」として使われています。本堂の中央祭壇を囲む壁には、悟りを開いた 16 体の羅漢像が安置されています。寺の本尊は、知恵を象徴する大勢至菩薩です。